

死亡率と関連する肥満の指標、BMI より WHR が有用

BMI は肥満を表す簡便な指標であるが、BMI の値が同じでも体組成や脂肪分布には個人差があり、死亡リスクの最も低い BMI 値については議論されている。そこで本研究では、肥満に関する指標である BMI、FMI（脂肪量指数）、WHR（ウエスト/ヒップ比）のうち死亡率と最も強い相関を示す指標について評価した。

2006～2022 年に、英国の 22 の臨床評価センターを含む英国バイオバンクに登録された死亡者のデータ（387,672 例、平均年齢 56.9 歳、男性 45.9%）を用い、発見コホート（337,078 例）と検証コホート（50,594 例）に分けて調査した。検証コホートの内訳は死亡 25,297 例と対照 25,297 例であった。発見コホートは遺伝的に決定された肥満度を求めるために使用し、検証コホートは分析のために使用した。解析の結果、BMI および FMI と全死因死亡との関係は J 字型を示したが、WHR と全死因死亡との関係は直線的であった（WHR の 1 標準偏差増加あたりのハザード比 1.41）。遺伝的に決定された WHR は BMI よりも全死因死亡と強い関連を示した（WHR の 1 標準偏差増加あたりのオッズ比 1.51、BMI の同比 1.29）。この関連は、女性より男性のほうが強かった（オッズ比 1.89）。遺伝的に決定された WHR と全死因死亡との関連は BMI に関係なく一貫していた。

したがって、WHR は BMI に関係なく死亡率と最も強く関連し、一貫性も BMI より強いことが示された。臨床においては、脂肪量と比較した脂肪分布に焦点を当てることを考慮すべきである。

出典：American Heart Journal. 2023 Oct 5: S0002-8703(23)00282-X.